

E-DREAMS

No. 9 発行:2001.2.11 [特定非営利活動法人 イー・ドリームズ] 通信

<第1回「タイ・チェンマイ・弾丸ツアー 2001」 報告特集号>

「弾丸ツアー2001」成功！

--「チェンマイ・プロジェクト」起動へ--

1月26日～28日の3泊3日、8名でタイのチェンマイ弾丸ツアーに行ってきました。現地に滞在したのは実質1日でしたが、ホームステイや新たな団体とのプログラムの可能性も見えてくる中身の濃い旅でした。今号はツアー参加者のレポートを中心にお届けします。

ツアーの旅程

1月25日(木) 夜11時 関西国際空港集合

1月26日(金)

- ・朝1時25分発 タイ・バンコク行き タイ国際航空便(TG627)に搭乗、離陸
- ・エンジントラブルのため、関空に引き返し、朝5時30分出発
- ・朝9時30分(タイ時間)バンコク着
- ・昼食(バンコク空港)
- ・乗り継ぎトラブルのため、12時15分と1時15分の便に分かれて、チェンマイに向かう
- ・シントロン氏と再会、ホテルへ
- ・夕方、ホームステイに出発
- ・3軒に分かれてホームステイ(灰田/河野・山本/岡田・中川)

1月27日(土)

- ・ホストファミリーと共に OJSAT (Old Japan Students' Association) の事務所へ (意見交流と日本語授業見学)

- ・The San Pa Yang Governmental School 訪問(Mae Tang 村)
- ・ シントロン氏の土地見学
- ・ 昼食
- ・Chiang Mai Vocational College の先生方との夕食会(タイ料理レストラン)
- ・ ナイトバザール(買い物も)
- ・ホテル泊(Chiang Mai Plaza Hotel)

1月28日(日) チェンマイ発 朝7時発 バンコク行き TG125 便
バンコク 11時10分発 マニラ経由大阪関空行き TG620 便で帰国

タイ弾丸ツアー関連の活動報告

1月18日(木) タイ・ツアー事前学習会(大阪)

辻、飯田、河野、中川、山田、辻岡、原口、藤澤、岡崎、井川参加

- 1、タイ学習(推薦図書、新聞記事から)
- 2、山田理事のタイ報告
- 3、弾丸ツアーの打ち合わせ

2月1日(木) タイ・ツアー報告会(大阪)

辻、飯田、中川、辻岡：井川参加

- 1、ツアーの報告
- 2、今後の方向性についての検討(報告を参照)

e-dream-s は何を売るか

辻 莊 一

e-dream-s も教師の団体から発展した、NPOの変わり種として新聞で紹介、HPも立ち上がり、吹田では市報にも掲載され、問い合わせや入会希望の電話やe-mailが来るようになった。

以下の文章は、あるメールの一部である。

私たち（と申しましてもまだ数人の英語好きの集まりですが）のこれから活動していきたい分野は小学校の英語です。

私は現在、地域人材活用に登録しております。

去年末に1年～3年の1クラスにつき2時間の授業をボランティアとしてもたせていただきました。授業自体はあいさつとインド人との交流を持つという内容のものでした。

その時に、子供達の旺盛な好奇心・興味を肌で感じ、また現場の先生方の状況を知ることにもなりました。

私たちの願いは、小学校の先生方が今から英語を勉強されるよりは、日本に住む外国人（ネイティブ・スピーカーに限らず）と先生方が協力しあって授業を展開してほしい、という事です。そのためには、まず、外国人の養成も必要ですし、先生との打ち合わせ、また子供たちの英語理解のカリキュラムも必要になってきます。これを行政が行うには莫大な費用がかかります。でも、市民団体として組織し、かつ行うことは可能ではないでしょうか？

つまり、NPO法人を作って小学校の英語授業のコーディネーターをやろうというのである。メールにはこの他にも小学校のみならず日本の英語教育全般に関する考えが述べられている。NPOには介護関係の団体が多いのだが、英語教育の分野で動き出そうとしている人もいるのに驚いて、次のような返事（要約）を書いた。

可能だと思います。ただし、いくつかの問題があります。

私がある程度良心的な行政担当者なら、英会話学校や英語の専門学校と契約することを真っ先に考えると思います。もちろんお金がかかるわけですが、小学校の先生の英語力に難があり自前の native speaker 研修が難しいならば次のような理由で妥当な選択だろうと思います。

まず、英会話学校や英語専門学校は（1）専門性のある人材を派遣できます。native speaker であればだれでも英語が教えられるわけではありません。おっしゃるように「外国人の養成」が必要です。これを一から行政がやると莫大な予算がかかるわけですが、外部に任せれば比較的安価で済みます。

また、おそらく native speaker が一人で教えるのではなく小学校の現場に精通した日本人との team teaching というのが現実的な解決策となるでしょうが、小学校の教員に英語力で問題がある場合は、これも派遣してもらえるわけです。

また、英会話学校や英語専門学校は「会社」ですから、(2) 信用と継続性があります。逆に気に入らないなら契約をうち切って他の学校と契約することもできます。

Iさんの考えている市民団体は(私の考えでは、ですが)この英会話学校や英語専門学校と競合することになります。コストの面では圧倒的に強いと思いますが、専門性と信用という面でも勝たなければなりません。組織として社会的信用を得て、継続的に活動をするために、NPO法人として認証されることが最低限必要だと思います。

残るは「専門性」です。英語に自信のある市民というだけではちょっとアピールが弱い。もちろん、英会話学校や英語専門学校が提供するものが必ずしも市民団体が提供するものよりも良いとは限りませんが、どちらかを取れといわれて予算があれば専門性のある方をとるでしょう。これはどうしたらよいか、今は私にも分かりません。

まとめれば、英会話学校・英語専門学校と並べて考えても、うちの方がいいですよと言えるものがコストの面以外であるのか、ということになります。

いろいろ勝手に書かせていただきましたが、少しでもIさんの今後の活動の参考になれば幸いです。

何のことはない、これは全て e-dream-s にも当てはまるのである。e-dream-s はNPO法人化し、様々な分野で事業が進んでいるが、その事業の成果が、素人集団の市民運動で成し遂げられたことという言い訳なしで、内容で勝負できるものになっているようにしなければならない。写真アーカイブにしてもタイとの国際交流にしても、同様の事業も多数ある中で私達の売り物は何かということを常に考えなければならない。要は、入れ物ではなく中身で勝負なのである。

e-dream-s come true

『トムヤムクンとかぶらむし』

井川好二

私鉄の駅から歩いて3分。駅前広場の北風に追われるように、街灯がポツンと点った路地へと曲がる。裏通りにあるとは云え、しっかりした店構え、道路まで中の明かりがもれている。紺地の暖簾をくぐって、硝子戸をひく。カウンターは入った正面、調理場をやや見下ろすように作られている。曜日の関係か、時間が早いせいか、客は疎ら。「寒いけど、まずビール」

女将が差し出す暖かいおしぼり。「何さしてもらいましょ?」「ええっと、寒鯊の造りに、湯豆腐。それと、京都の冬は、かぶらむし」

「チェンマイは、どないでした?」

「Best Season やったね。乾期で、雨降れへんかったし」

「あちらも、やっぱり、冬なんですか?」

「そう、朝晩は長袖着てんと寒い。けど、昼間は、日本で云うたら、梅雨のあがった7月はじめ。サラッとして気持ち良い初夏や。象も気持ちよさそうに、散歩しとった」

「ええ?象さんが、お散歩したはるんですか?」

「そうや。人乗せて舗道を歩いてた」

「へえ、チェンマイって、エエとこなんですね」

「うん。のんびりしてて、きれいで、人情があって、美人が多うて、歴史がいっぱいで...」

「タイの京都どすか?」

かぶらむしの入った朱塗りの椀の蓋をとる。ホワッと丸い湯気が上る。おろして蒸した近江かぶらの上に、トロリとあんかけ。

「お酒にしますか、センセ?」

「そやなあ、竹鶴、冷やで貰おか。やっぱり日本酒は、広島やから」

「そんなこと、伏見のお酒屋さんいたはったら、気い悪うしますよ」

「かんにん、かんにん」

初夏の陽気のチェンマイから帰ってみれば、京都の冬は滅法寒い。しかし、湯豆腐と云い、かぶらむしと云い、寒い時には、寒い時の美味しい食べ物があるのも京都である。

「タイ云うたら、センセ、あっちの料理で、あの辛いのもん、トムヤムクン、云うんですか、癌に効くらしいですね」

「こないだ新聞に書いたあったな。タイの人に癌が少ないのは、トムヤムクン食べてるからやて」

「向こうで食べはりました？」

「食べた、食べた。2泊2日で、3回も食べたで」

鱧鱈スープやコンソメと共に、世界の3大スープと云われるトムヤムクン。タイ語で、「トム」は「煮る」、「ヤム」は「雑多なものを混ぜる」の意。「クン」は、「エビ」で、トムヤムクンは海老入りスープ。その独特の風味をだすために使われるスパイスの、ナンキョウ（タイショウガ）、レモングラス、カフィライム（コブミカン）に抗癌作用あり。つまり、旨い薬膳だ。

「いやー、センセ、あんな辛いもん、よう食べはりますね？」

「辛いけど、旨い。それに、食べ方分かってん」

「食べ方ですか？」

「うん、トムヤムクンで、どうにも我慢できんくらい辛いのは、ピッキヌ・云う小粒の唐辛子なんや。それさえ口入れへんかったら大丈夫」

「ピッキヌ・？」

「そや、タイ語で、ねずみの糞ちゅう意味やけど」

「いややわ、センセ。けど、どうやって食べんようにしますのん」

「わかるねん。ピッキヌ・は、緑の小粒で、つやつやしてる。それを食べんようにしたらエエんや。簡単、簡単」

「へえ」

「けど、タイの人かて、時々間違ごて食べて、エライ目会うんや。この間も、みんなでワイワイ云うてトムヤムクン食べてるとき、僕のチェンマイの友だちが、急に静かになりよった」

「へえ」

「どないしたんか思たら、ピッキヌ・が大当たりや！目エ白黒させて、汗かいて、涙流しとった」

「へえ、タイの人でも難儀しはるんですか」

タイの話に夢中で、冷めてしまった湯豆腐を、暖め直してもらって、グラスの竹鶴を飲む。

「けど、センセ、トムヤムクン食べに、タイへ行きはったわけやないですよな？」

「当たり前や。e-dream-sのプロジェクト立ち上げの下見やで、メインは、トムヤムクンはおまけ」

「そうですよね。それで、そのe-dream-sはんのお仕事の方、どないでしたん？」

「どないて、秋にタイからのホームステイを受け入れる話や、来年の正月にチェンマ

イへ行って合宿する話や、いろいろと纏まりかけてる」

「お忙しなりそうですね」

「そやなあ」
「けど、以前に云うたはった、向こうに学校作らるってお話は？」
「これからや」

現地にベースを持って、国際的な教育 NPO 活動を立ち上げたいと云う、「チェンマイ・プロジェクト」は、未だその具体的な形が見えていない。しかし、現地の協力者との考え方の擦り合わせも始まったし、現場の下見にも行ったし、いよいよこれからが本番。本格的に計画を練っていく段階にある。

「料理で云うたら、今は、材料が揃たってとこかな」
「そしたら、これから、庖丁ですか？」
「そうそう。庖丁も鍋も蒸し器も要る」
「板場さんの腕の見せ所ですね」
「うん、板場も仲居も女将も旦那も、気張ってもらわな」
「そうどす、力あわせて」
「トムヤムクンか、かぶらむしか知らんけど、旨いモン作らんなあ」
「美味しいて、身体にエエもん」
「そう」
「楽しみどすなあ、センセ」

寒い京都で、熱い思いを語る。身体が火照るのは、酒のせいばかりではない。

(Saturday, February 10, 2001)

< Old Japan Students' Association, Thailand との交流 >

新たなネットワークの可能性として... OJSAT

河野 良子

今回のタイツアーでホームステイを受けてくださったのは、OJSAT (Old Japan Students' Association) という団体...名前だけでは何なんだか分からない。1年以上日本に留学した経験のある人が、始めは情報交換のために集まり、タイに帰国してからの仕事・事業に関して相互扶助をしていた会...と聞いてもやはり分からない。最近では情報交換の他に、学生を集めて日本語教室を開いたり、日本文化の紹介をしている。本部はバンコクにあり、我々を受け入れてくれたのは、そのチェンマイ支部であった。思いがけず、e-dream-s がタイでのネットワークを作る相手に出会ったかなと思う。

ツアー2日目のスケジュールを相談する中で、翌朝ホストファミリーが所属する日本語教室を訪問してはどうか、という話が今回ツアーのコーディネイトを手伝ってくれたシントロンさんからあった。シントロンさんの奥さんの知り合いだというのが、会のこともよく分からず『日本語教室にはあまり興味ないなあ』と思った。

アジアツアーで、日本語教室を見学したこともあるし、日本語を習っている学生と交流したこともある。その時は、日本語ネイティブスピーカーとして日本語を習っている生徒と接して、とても易しくきちんとした日本語を喋っている自分がおかしかったり、ALTの感じるストレスがこんなものかと思ったりと、それなりに意義があったのだが、今我々の関心や目的は変化している。日本語にしても英語にしても現地の教室の実情を知ることは必要だろうが、覗き見て、自分と距離を持ったところで『へえ、こんなんですか』と面白がっていた段階とは違う。自分達と繋がりを持つことのできる相手を捜している。これは私たちが、e-dream-s という活動の場をもったことと無関係ではないだろう。

乗り気ではなかったのだが、ホームスティの流れで、スティの翌朝3家族に分かれて泊まった全員が、チェンマイ支部の活動場所である市内の事務所を訪問することになった。日本語教室の先生をしている日本人女性を交えて、OJSATの(たぶん)幹部会員と交流した後、日本語教室を見学させてもらった。タイには、チェンマイにも日本語を教える場所が近年増えているが、多くは営利目的である。しかし「この会の日本語教室は、日本文化紹介の活動の一部として行っているのだから、他の機関とは違います」と副会長をしている女性の話。この人は看護婦の仕事を持ちながら、会の活動をしている。この人に限らず会員はそれぞれの仕事の傍ら、OJSATの活動をしている。

営利目的ではなく、他に仕事を持ちながら活動をしていること、クロスカルチャーの視点を持つこと、英語を共通言語として使えそうなこと、活動の一部とはいえ教室を持っていること等、e-dream-s や ACROSS が交流していけそうな会である。第一、タイで日本文化紹介をしているなんて、ありがたい話ではないか。惜しむらくは留学していたという人は年輩の人が多くて、日本語もほとんど忘れていて、紹介されている日本文化の内容はちょっと不安...実状がなく美化されていたりしてね。ならばご一緒に何かする中で、生きた日本を知ってもらいたい。

この会は、今年の秋日本訪問の予定を持っている。ホームスティを受け入れたり、交流活動を作っていく日本側の団体を探しているところだということ。お互いの会のことをさらに知る必要があるし、日本に来る目的や、何がしたいのかによってe-dream-s が受け入れるに相応しいかはまだ分からないが、新たなネットワークの可能性として考えていけそうである。

< San Pa Yang Governmental School 訪問 >

植樹した木を見に行こう！

中川 房代

2日めの朝、バンに揺られ、The San Pa Yang Governmental School に向かう。幹線道路は高速道路のように、快適でスピードにのってドライブ。しかし、途中から外れ、舗装されていない農道に入っていく。少し揺れたが、

「モンゴルよりはいいよね！」

「そうそう、モンゴルは道に穴があいてて、通り抜けるのに時間かったし。」

アジアに旅なれた人たちの集団ならではの会話。

1時間ほどで Mae Tang 村にある The San Pa Yang Governmental School に到着。広々とした敷地と、校庭には、木や草花が溢れ、流石に南国。

本来は、前日の午前中に訪問し、交流の後、生徒や先生と一緒に昼食もとることになっていた。準備もいろいろとしてくださっていたのだが、飛行機の遅れのため、それも全てキャンセル。

飛行機のトラブルのせいとは言え、申し訳ないのと残念な気持ちでいっぱいだった。

この日は、あいにく土曜日。学校は休みで、「当番」の先生と近所に住んでいる生徒（中学生）4人が迎えてくれた。話を聞くと、高校進学率は4分の1、大学に進学する生徒も数える程だということだ。（正確な数字は覚えていない。すみません。）持っていった日本に関する本（英語版）を渡し、記念写真を。

その後、校舎の裏に行って「記念植樹」。

「3年たったら大きくなっていますよ。」

とその学校の先生は言っていた。

「必ず、また来ます。」

私達はそう言って、学校を後にした。

静かで、空気が美味しくて、住むにも、勉強するのも快適な環境。ただ、やはり水は貴重品だそうだ。

その後、学校の近くにあるシントロン氏が購入したという土地にも寄った。様々な木を植え、動物も飼っていたが、e-dream-s として、この土地で、或いはチェンマイ定住プログラムで何ができるのか、今後時間をかけて検討していきたい。今からすぐ、というプロジェクトではないが、その分楽しみでもある。今後もタイと交流を持ち、シントロン氏とも繋がりを続けていくことが嬉しい。

これまでいくつかのアジアの国を訪れた。今回の弾丸ツアーは、期間が超短かったということもあるが、滞在中から「絶対にまた来るぞ！」と思ったのは初めてだ。それは、タイが違和感なく、自分の中に自然に馴染み、タイと何かしたいという気持ちになったからかなと思う。

< Chiang Mai Vocational College の先生との交流 >

笑顔と歓声に迎えられて

飯 田 佐 恵

タイ・ブーメランツアーの2日目の夕方、6時半頃、私たちのバンはとあるレストランの角で止まった。車外の歓声に何かと思ったら、なんと Chiangmai Vocational College の先生方が私たちの到着を待って待って「やっと、来た！」という喚声だったのだ。車を降りて "Nice to see you again." と満面の笑顔とタイの作法の合掌で迎えられた。お互い9年振りの再会の感動の場面です。"Nice to see you again." ということが本当に生きて心に届いた瞬間だった。

レストランはタイのダンスショー付きの青空レストランで、正面後方に昔の上流階級が住んでいた館を博物館として残しており、レストランの塀の代わりに左右、後部三方を長い板のベンチ席で囲んであった。真ん中の広いスペースは、まわりのいす席より一段低く、白いクロスを敷いた板張りの床に長いテーブルが4列くらい並べられ、じかに座って食事するようになっていた。この日は旧暦正月休みの土曜日で家族や親せきが集まった大所帯の客でいっぱい150人は居たように思う。私たちは後方のいす席にカレッジの先生方と向かい合って座った。空には細めの三日月が出ており、星がこっちに1つ、あっちに1つとまばたき、レストランの塀を越えて伸びている大きな芭蕉の葉と厨房の出入り口に植わっている山盛りのブーゲンビリアの灌木が南国にいることを気づかせてくれた。

食事の前にカレッジの先生方のガイド付きで博物館を見学した。高床式の木造家屋で日本のお社のように広い階段を上って入ると廊下を挟んで両側に3～4の部屋が奥まで続いており、布袋さんのようなふくよかな顔の巨大な神象とか結婚式がとりおこなわれた部屋など珍しいものがたくさんあった。中でも10体ばかりの木彫りの托鉢僧の1つ1つの表情に親しみを覚えて思わず座り込んで見入ってしまった。

7時過ぎから歓談しながらの食事が始まった。カレッジからは9年前に日本へ来られた24人のうちの14人と加えて数人の先生が私たちのために集まってくださった。9年も経つのだからもう、退職されたり転勤された先生もおられる。河野さん宅にホームステイされた先生も昨年退職されたとのこと。その先生といえば、先生は河野さんに会うなり手をつなぎご自分の隣に座らせて、まるで田舎に住む叔母(先生)に愛しい姪(河野さん)が久方ぶりに会いに来て嬉しくて嬉しくてたまらないといったようすで、そののどかでほほえましい情景に私は羨ましいやら「いいもんやなあ。」と胸をうたれるやら。お二人は日本人とタイ人の外国の人どうしの関係でそれもたった一度しか会っていない仲です。でも、二人の間に何の違和感も感じられない。これは、やはり、河野さんがホストファミリーとしてとてもやさしくこの先生につくされたことのあらわれです。

この夜のご馳走は私たちにとってはもうすっかり馴染みのビア・チャン(Beer Chan・・・象という銘柄のビール)とタイ料理(トムヤンクン・・・えび入りとポーク入りのトムヤンスープ、肉と野菜炒め、サフランライス)だったが、カレッジの先生方からお酌やお料理を

取り分けていただいて、心温まる接待を受けた。この店で初めて出てきたフィッシュパイ（魚の粉末を卵で溶いたものを油でちらし揚げしたような物）はビールによく合ったし、料理しない白いタイ米のご飯がとてもおいしいことを発見した。

食事中、Busakorn 先生が「私は灰田さんを覚えていますよ。」と言って、彼女が9年前に日本を訪問したときの写真アルバムを見せてくれた。なにわ会館でのパーティとか伊丹空港へ見送りに行ったとか思い出語りが始まった。「井川さん、辻さん、岡本さんもみんなこんな若かったんや。」「今のんがええなあー。」「押村さんも居てるで・・・。」「なんやようわかれへんかったけど、おにぎりを2人前つくって奈良へ行きましたで。」薄暗い照明の中で、めいめいが懐かしい場面を思い起こしていた。

タイダンスのショータイムがやってきた。女の一人舞い、男の一人舞い、男女二人舞い、女三人舞い、最後は客への大サービスで象の背の上の踊り、高い木の上で曲芸なみの技を見せてくれたりといろいろあったが、なにしろ私たちの最後部の席からは残念ながら細かいところまで見えなかった。でもどの踊り手も終始自然な笑みをたたえて踊っているのが好い印象をあたえてくれた。ダンサー全員と記念撮影するというのでかれらのそばへ行ったところまあ、みんなかわいい！少年少女たちでびっくり仰天した。年齢を聞くのを忘れたけど、中学生かせいぜい高校一年生ぐらいだった。「自然に笑えてそれが美しいのは当然だ。踊りが楽しくてその喜びがかれらを自ずとにこやかな顔にさせるのだ。」と納得した。

9時も過ぎてお開きとなった。9年前の別れの時、まさかこんな再会があるとだれが思ったでしょうか。でも、このたびその再会が実現したのです。今回カレッジの先生方と今後の交流についてはなにも話が出なかったけど、新しく e-dream-s と Old Japan Students' Association, Chiangmai との交流が始まろうとしている。そのうちにシントロン氏との提携事業が考えだされるかもしれない。e-dream-s とタイとのなんらかの接触はこれから続けられていく。そうなれば私たちはチェンマイやバンコクに行くことになる。その時、このカレッジの先生方とまたお会いできる。

"We'll see you again and again and again!"

充実したホームステイ・プログラム

灰 田 穰

タイ、チェンマイはくせになる！？

山 本 貴 子

「ジャンケンポン。」

予定がずいぶん遅れて、チェンマイに到着した私たちは、夕方5時頃ロビーに集まり、ホームステイのペアを決めた。私は、じゃんけんの結果、河野先生と同じホストのところへお邪魔することとなった。ホストは、プラキットさんと奥さまのカニカさん。

プラキットさんは、およそ10年前、来日し、日本語を勉強された経験があった。英語も臆せず、どんどん話された。以前、小学校の教師をしておられたが、今はリタイアされ、マッシュルーム農場を経営されていた。奥さまは、教職を続けながら、彼の農業を手伝っているということだった。

初めに案内されたのは、プラキットさんのマッシュルーム畑。庭には、放し飼いにされた鶏や犬。たくさんの木があり、自然はいっぱい。こんな澄んだ空気の中で生活する動物たちは幸せだ。予想以上に大きな畑。網の入り口から中にはいると、本当にたくさんの様々な種類のキノコが、栽培されていた。「明日の朝、キノコを摘みにきましょうね。」とここにこ顔で話されるプラキットさんは、こよなくキノコを愛しているように見えた。

約束通り、次の朝キノコの採集に出かけ、生のキノコの香りを充分満喫した。河野先生は何度も、「バター炒めにして食べたいなあ。おいしいやろなあ。」とつぶやいておられたが、それは叶わぬ夢であった。

しかし、私たちは、このキノコ収穫の前に、朝市見学に出かける貴重な経験をしたのだった。カニカさんは毎日食材を買いに行かれるそうだが、まあ何とも珍しいものがたくさんあった。カメラを忘れて出かけてしまったので、お見せすることはできないが、新鮮なココナッツやバナナの皮をまいて自分で作るタバコや、甘みのある sticky rice、魚、肉、靴、野菜、靴などさまざまのものが売ってあった。カニカさんは私たちの朝食用にといろいろ買ってくれたが、竹の筒に包まれた豆入り sticky rice は河野先生が結構喜ばれていた。

家に帰ると、カニカさんは朝市で買ったお総菜のひとつを門の上の器に置いた。実は、僧侶へのお布施であった。プラキットさんも熱心な仏教徒らしくアンティークの高価な仏のネックレスを肌身離さずされるということだった。僧侶を敬う、そして仏を信じるタイ人を実感した。

そうそう、市場と言えばもう一つ、夜の出店ナイトバザール。2日続けて出かけたが、一番驚いたのは、すごーく安心して歩き回れること。お金を盗まれるのでは...とか一人で値切るとか到底できないのでは...なんて心配は必要なし。ただ、買った布靴のファスナーは、次の日には壊れていたもので、商品の保証はできないが。

e-dream-s 通信 2001.2 No.8

さらに、出店について触れておきたいことが。それは屋台。私たちは、夕食後なんと夜食まで食べたのだが、それが屋台のラーメン。薄目の焼き豚たっぷり、青梗菜に似た青菜がたっぷり。麺は細麺。お腹いっぱいでも食べられないだろうと思っていたら、とんで

もない。河野先生も私もペロリと平らげてしまったのだ。プラキットさん達よく外食されるらしいが、あの時のラーメンなら、また食べたいと思う。

非常に短期間の滞在であったが、タイ、チェンマイの印象は非常によい。人の笑顔、優しさが何ととってもすばらしい。食事も想像とは、はるかに違っておいしい。チェンマイは自然が豊富で、治安がよい。また行きたいな。と素直に思える。

また行くためには、人とのつながりがとても大切だ。シントロンさんにメールを送ると早速返事が来たり、プラキットさんも先日、アドレスをとったよとメールをくれた。メールでの異文化コミュニケーションの機会をもてたこのタイツアーに感謝。

(おまけ)

河野先生はなんとタイに着くなり、あしがしもやけに？ホストの車での移動中、靴下を脱いで左右交互に「気持ちいいねん。」と言いながら、足を掻き続けておられた。

中川先生は、意外に(私には) おっちょこちょいなところがあることを知った。

- ・トムヤンクンのピキヌー(舌がしびれるほど辛い)をかぶりつき、当分水で口を冷やすはめに。(わたしもですが...)
- ・なんでもないところで転びそうになる。
- ・食事中、食べ物をこぼす、こぼしそうになる。

井川先生は値切るのがうまい。

わたしは、220パーツを160に値切ったことで、ルンルンだった。でも、井川先生は難なく、800パーツを300パーツに。(これは、東京の岡田先生のタイ枕)
灰田先生は、夕食時はいつもハイテンションで、ノリがよく、いっぱいいっぱい英語をしゃべりまくられた。

飯田先生は、出発前は大変体調が悪く、心配であったが2泊3日とてもお元気で、肌もびちびちされていた。

辻先生は、飛行機に乗られると、ほとんど私と同時くらい、速攻で深い眠りにつかれた。

岡田先生は、実直でてきぱきされていて、乱れることがなかった。

一步踏み込んで

-チェンマイでのホームステイ-

岡田 か お る

ホームステイを引き受けてくださったのは、Old Japan Students' Association の会員であるサナンさん。チェンマイの中心地から5キロほど離れた閑静な場所にお宅がありました。ご夫婦二人とお手伝いさん、そして犬が一匹と一緒に暮らしてました。

旦那様のサナンさんはおそらく70歳代。昭和20年から21年、18歳の時、当時、東京・世田谷にあった日泰学院で一年間日本語を学んでいました。当時の軍部の方針で若者に日本語を学ばせようというものがあったようです。終戦によりタイへの帰国命令が出て、タイに戻ったそうです。

日本留学時代の古いアルバムを見せて頂きました。そこには20人ほどの同期の仲間と写る若いサナンさんがいました。柔道着を着て並ぶ姿や、運動会の様子、箱根旅行の写真について説明してくれました。当時の思い出をとて大事にしている様子、また日本に留学していたことを誇りにしている様子を感じ取れました。

奥様とは英語でお話ししました。旅行が好きという彼女、世界の各地を訪れているそうです。明るく気取らず、きびきびとした方でした。レストランでの夕食後、みんなで出歩いたナイトバザール（夜に屋台が並ぶマーケット）ではバッグを体の前に持つように言ってくれたり、込み合った場所でははぐれないように手を引いてくれるなど気遣ってくれました。同じアジアでもタイの人は日本人より身体の接触を気軽にする印象をこの時に受けました。

朝食は奥様が腕を振ってくれました。おかゆに、数種類のトッピング、（ナッツ類がおいしかった）ピクルス、肉まん（ニンニクを振りかけるように勧められた）そして幾種類もの果実。マンゴスティンも初めて口にしました。他のホームステイの家族も集まり、朝の市場で買ってきたものも加わり食卓は大賑わいでした。どれもこれも珍しく（特にお米と甘いココナッツの取り合わせが妙にマッチしていておいしかった）楽しい朝食になりました。

すてきな庭についても紹介します。きれいに手入れされた芝生、ピンク、オレンジ、赤の色鮮やかなブーゲンビリア、そしてバナナ、マンゴ、グアヴァ、オレンジなど数種類の果樹。サナンさんご自身がみな手入れをしているそうです。庭で育てた新鮮な果実を食べられる、それはとても豊かな生活ではないかとうらやましくなりました。

朝食後満足にお礼を言う時間もなく慌ただしくお別れになってしまったのが残念でした。短い時間の中の交流でしたが、日本に対してとても好意的である印象を受けました。他にもタイ語を学ぶ日本人学生のホームステイを引き受けたり、今でも日本語を忘れないように本を読むようにしているなど、日本との関係を大切にしていることが分かりました。また初対面の人間

e-dream-s 通信 2001.2 No.9

に対して、気取らず、構えず自然体で接する態度にもとても好感が持てました。

実はタイを訪れるのは2度目。初めて来た2年前は、ありきたりのツアーで、物足りなさを感じました。もっと普通のタイについて知りたい、タイの人々の生活について知りたい、弾丸ツアーと聞き、そんな思いが動き出しました。限られた現地の人、それもかなり生活に余裕のあ

る方々との交流で、タイについては百分の一も語れないとは思いますが、一歩踏み込めたことは確かではないかと少しの満足を感じています。

報告

「イー・ドリームズ」今後の方針（タイ・チェンマイツアーを終えて）

代表理事 辻 荘一 ・ 副代表理事 中川 房代

日時:2001年2月1日(木)午後6時30分~8時

場所:テンプル大学大阪校

1. タイツアーを終えて、検討課題は次の3点である。

(1) 定住型プログラム

現地でのニーズを探りながら、シントロンと協力して行う事業やタイで日本語を教える事業など、今後時間をかけて検討していく

(2) 交流プログラム(ホームステイを中心とする)

OJSAT(Old Japan Students' Association)の来日プログラム

(3) 写真アーカイブ

2. 今後の活動としては、(2)を中心に考える。

< OJSAT について > —資料参照—

- ・全タイで2000人、チェンマイでは約200人の会員がいる
- ・会員は、かつて日本に1年間以上勉強などのために滞在したことのある人
- ・組織は、ボランティアとして動いている

< OJSAT の意向 >

- ・今年10月に来日したい
- ・東京を訪問(ホームステイ)したい

3. イー・ドリームズとして重点を置くべき事柄

(1) オーガナイズ、マネージメントの能力をつける、組織として蓄積していく

今年10月の OJSAT メンバー(15名くらい)来日に向けて、プログラム(1週間くらい)を企画。

(会員以外を巻き込んでのホームステイ、オリエンテーション、フィールドワークなどをどうアレンジするか。)

(2) マスコミなどを通じ、国内でのイー・ドリームズ認知度を高める

朝日新聞などとのつながりを生かしつつ、どう社会にアピールしていくか

(3) 会員獲得

(4) 長期的なプロジェクトの方向性を打ち出していくこと

e-dream-s 事業報告 1 : ホームページ

e-dream-s ホームページ

理事 原 口 恵 美

ずっと「やらなくてはいけない」と思いつつもなかなかできないことがあると、結構ストレスが溜まるものです。私の場合、ホームページの更新作業がその一つでした。しかし、ようやく、そのストレスを解消することができました。

1月の下旬に、ホームページのデザインをお願いした業者へ、第二回目の講習を受けに行きました。思った以上にコンピューターのことをわかっていない私一人では心配でしたので、辻代表理事が付き添ってくださいました。

ホームページのプログラムの詰まったCD ROMを受け取ってながら、どこをどのように変更すれば更新できるのかわからなかったのです。でも、実はパスワードの入力をして

e-dream-s 通信 2001.2 No.10

いなかったのが理由だったことを知って、力が抜けてしまいました。でも、今回は実際に自分のノートパソコンを使っただけの講習をしてもらったので、前回よりは格段によくわかりました。

やはり、何事も自分でやってみなければ、その難しさも簡単さもわからないものです。

それから早速、たまっていた e-dream-s 通信の 10 月～1 月号の更新と What's New のページには、アクロスと e-dream-s の活動が紹介された新聞記事をスキャナーで取り込んで掲載しました。まだ、ご覧になっていない方は、是非、見てください。

<http://www.e-dream-s.org>

しかし、更新した後に、実際にホームページを見てみると、画面の表示速度がめっきり遅くなっていました。スキャナーで取り込んだ画像が重過ぎるからだそうです。何とか軽くならないかと、本を調べながらいろいろと取り組んだのですが、結局はそのままです。なんとかしなくてはと思いつつも、またもや、なかなかできない状態です。

せっかく解消された更新作業の遅れによるストレスでしたが、また、新たなストレス源に遭遇してしまいました。この新たなストレスが解消される時には、自分も少しパワーアップできるだろうという望みを持って、これからもがんばりたいと思います。

e-dream-s 事業報告 2 : マスコミ・ウォッチ・プロジェクト

1 月の理事会で決定された「マスコミ・ウォッチ・プロジェクト」を、今後、大阪の辻岡理事と九州会員の塚本さんの二人に担当してもらうことになりました。手始めに、昨年末に私達が送った朝日新聞「ののちゃん」漫画への公開質問状に対する朝日新聞からの「回答」について、再度「質問状」の形式で、内容確認をしていくことにしています。皆さんのご協力をお願いします。

ある日の日記より

理事 辻岡尚子

2 月 9 日（金）長引く風邪が治らず、コタツで横になっていた。ぼーっとしながらテレビをつけると、辻元清美氏の姿が目飛び込んできた。国会だ。衆議院予算委員会らしい。明快な言葉で、切れの良い質問を投げかける。目線の配り方も、効果的に使っている。熱でぼーっとした頭にさえおもしろく、引き込まれてしまった。各大臣と渡り合って、というか、むしろ圧倒

している。きっと、仏頂面の大臣連中は「かなんナー」とおもっているやろうな。かっこいいなー。

辻元清美氏は、このわずか 10 分ほどの質疑のなかで（私がみたのは、途中からだったので）「テレビをごらんになっているみなさん」というフレーズを、少なくとも 3 度は使っていた。

しかも、カメラ目線とまでいかないが、カメラの方を向いて、つまり、「テレビをごらんになっているみなさん」に向けて、どう考えますかと問いかけているようだった。国会中継というものを、そうたくさん見たわけではないので勝手にそう決め込んでいるのであるが、視聴者、ひいては有権者の視線をこうも明確に戦略として使おうとした議員諸氏は、今までいなかったのではあるまいか。国会中継といえば、かみ合わない議論と下品なヤジと居眠り、というイメージだった私にとって、これはたいそう新鮮であった。彼女のこのスタイルを目の当たりにすれば、議員諸氏は、もし鈍感でないならば、有権者の存在を無視する訳にはいかなかったはずだ。このようなスタイルは、辻元氏の選出のバックグラウンドを考えれば不思議でも何でもないが、このような人が多くなれば、日本の国にとっていいことだと思う。

今回、イー・ドリームズでも、教育改革提言事業「マスコミ・ウォッチ・プロジェクト」計画が、第4回理事会において承認され、北九州の塚本美紀さんと大阪の辻岡がこのプロジェクトのチーフを任された。これは、書かれたものに限定してではあるが、問題であると思われる事柄に対して「教育提言を社会的影響の甚大なもの」に行う、という事業である。しかし、単にそれだけにとどまらず、マスメディアを動かすにはどう発言し交渉していけばいいのかというノウハウを、イー・ドリームズに戦略として取り入れていくということでもある。これは、辻元氏の国会の質疑の戦略と相通するものがある。世の中をよりよい方向に変えてゆくには、どんなコミュニケーションをとっていく必要があるのか。情報公開がますます進められていき、多様な価値観を持つ人々に関わるとき、あらゆる教育的指導や教育活動に関してより accountability が求められるこれからの時代の教育に携わる者には、重要な資質だ。

塚本さん共々、これから手探りでこのプロジェクトを進めていきますのでよろしくお願いいたします。

e-dream-s 事業報告 3：写真アーカイブ/NEWS A の CD-ROM 化委託

鵜呑み、丸呑み、消化不良

前原三貢子

スキャナー係りの前原です。モンゴル写真のスキャンはどうか終わりましたが、新たなタスクが！？それは、News A をスキャンすることでした。写真のスキャンには慣れたものの、

e-dream-s 通信 2001.2 No.11

文字の方は試したことも無く、試行錯誤の第一歩。解像度 360 dpi でスキャンし、GIF で保存するよう言われ、素直に実行。

ZIP にコピーし、丸野先生に送ると、何と、スキャナーの性能がいいのか、容量が多すぎるとの事。う~ん、どうしたものか？頭を抱えた前原（姿を思い描いてください）。そこで思い出したのが、前任校で同僚だった先生から紹介された、PC 相談室の利用。すでに、登録済みだったので、早速”どうすればいいの？”と、相談を持ちかけたところ、見ず知らずの何人もの方から、貴重なアドバイスをいただきました。

なんと、解像度 360dpi と言うのは、途方もなく高いそうで、100dpi ぐらいに落としなさいと。あ~、なんてバカだったんだろう・・・、言われた通りにやったのはいいけれど、自分のスキャナーの条件などおかまいなしに、実行してしまうなんて・・・。そこで、丸野先生の迷惑も顧みず、150dpi、96dpi と、2種類の解像度でスキャンし直し、どちらがいいのかたずねることに。すると、予想をはるかに越えた96dpi がいいとのこと。結局、96dpi でスキャンし直して丸野先生に送り、丸野先生の方で、もう一度圧縮をかけていただくというご迷惑をかけてしまいました。

人の言うことを鵜呑みするのではなく、自分の条件などをしっかり考慮に入れなければ行けないと、今さらながらに反省しております。

次は、アジアツアーの写真のスキャンがありますので、皆様またご協力の程よろしくお願い致します。

「NPO 支援税制緊急フォーラム」報告

寄附金 + 助成金・役員 / 社員からの寄附・3,000 円未満の寄付金

3分の1

収入・補助金・臨時収入・借金・繰越金

副代表理事 中川 房代

2月9日、大阪で「NPO 税制に関する緊急フォーラム」(主催：大阪ボランティア協会・NPO 推進センター、シーズ)が開かれ、飯田理事、中川副代表理事の二人で参加してきました。

e-dream-s でも、前々号(12月号)でNPO 税制の特集を組みましたが、昨年末に出された「税制調査会」の報告の内容があまりにもわかりにくく、またひどいものであることから、急遽、

学習会し、今後の方針を検討する、という趣旨で開かれたものです。

タイトルに書いた計算式が、政府提案の寄附金の控除を受けられる団体の要件（基準）だそう
です。但し、分母の「寄附金」は（寄附金 + 助成金）×2%で計算する、という訳の分からない
計算式で、集会参加者 50 名のうち、これに該当する団体は 0 でした。全国的にも現在認証され
ている NPO 法人のうち、該当するのは 1~3%だろうということです。

分かりやすく言うと、こういう NPO 法人は該当しないということです。

特定の人からの高額な寄附のある団体

3,000 円未満の寄附の多い団体

会員や役員からの寄附の多い団体

従って、該当するのは、会員が少なく、会員外からの寄附(3,000 円以上)が非常に多い団体で、
寄附者が同じ市町村に偏っていない、ということになるようです。

しかもこれは収入だけの要件で、その他事業に関してや所轄庁（e-dream-s の場合は大阪府知
事）の証明書が必要だったり、過去の二年間の実績が問われたり、となかなかすべての要件を
クリアするには気が遠くなりそうです。

集会主催者としては、全体としてこの税調報告は「3 歩前進、2 歩後退」という評価をしてい
る、のだそうです。1 月末から始まっている来年度予算の審議の中でこの「NPO 税制」も含ま
れていくのだそうです。また今年 7 月に行われる参議院参議院選挙、10 月からのこの制度の開
始（予算案が決定された場合）に向けて、どう取り組んでいくか、皆様のご意見をお聞かせ
下さい。

* 詳しい資料は中川、飯田が持っています。また、シーズや NPO 議員連盟など、NPO 関連の
組織のホームページでも情報が得られると思います。

お知らせ

・シーズ（市民活動を支える制度をつくる会 Coalition for Legislation to Support
Citizens' Organization）メールマガジン

<http://c-s.vcom.or.jp> から登録できます

・「寄附 YES！ 99 人委員会」も上記のホームページからアクセスできます

『きよみと GO! 2001 辻元清美 新春のつどい』に参加しました

2月4日(日)大阪高槻市で開かれた辻元議員の集いに、辻、飯田、岡崎、中川の4名で参加してきました。辻元議員は NPO 法を作った議員の中心人物で、テレビやマスコミにもよく登場していますね。秘書の辻元一之氏には、私達の設立総会や認証記念パーティにも来て頂いています。

集いは会場準備、設営から運営、料理、お酒まで全て支援者の手で行われ、参加者も、本当に彼女を応援したいと思って来ているのが分かる集いでした。辻元議員と話したのは2回目ですが、再度名刺と e-dream-s 資料セット (e-dream-s 通信、会員募集要項、ステッカー、モンゴルツアー報告集、新聞記事) を渡し、一緒に記念撮影をしてきました。

今後もつながりを続けつつ、一緒にできることや協力してできることには積極的に取り組んでいきたいと思います。

e-dream-s 通信 2001.2 No.14

e-dream-s 通信 2001.2 No.15

e-dream-s 通信 2001.2 No.16

e-dream-s 通信 2001.2 No.17

e-dream-s 通信 2001.2 No.18